

令和3年10月29日

令和3年度 第1回美幌町総合教育会議 会議録

美 幌 町 教 育 委 員 会

令和3年度 第1回美幌町総合教育会議 会議録

1 開催日時 令和3年10月29日(金)

開会	13時00分
閉会	14時35分

2 場 所 しゃきっとプラザ 会議室(1)・(2)

3 出席者

(構成員)	美幌町長	平野浩司
	美幌町教育委員会	
	教育長	矢萩浩
	職務代理	加藤哲彦
	委員	大沼美紀
	委員	東海政博

(構成員以外の出席者)

美幌町	
副町長	高崎利明
総務部長	小室保男
美幌町教育委員会	
教育部長	遠藤明
学校教育課長	多田敏明
学校給食課長	佐々木鑑仁
社会教育課長	松尾まゆみ
スポーツ振興課長	浅野謙司
博物館課長	鬼丸和幸
図書館長	竹花史康
学校教育グループ主査	
	宮崎博史
学校教育グループ主査	
	瀬口正幸

(傍聴者) なし

13時00分 開会

1 開 会

○遠藤教育部長 皆様、お疲れさまでございます。ただいまから令和3年度第1回美幌町総合教育会議を開催いたします。

本日の出席者でございますが、議案の2ページに掲載をしておりますが、本日、小川委員が欠席となっておりますのでご報告いたします。

また、本会議は原則公開でありますので、予めご了承願います。

それでは、お手元の会議次第に基づきまして、会議を進行させていただきます。

2 挨 拶

○遠藤教育部長 初めに、会議の主宰者であります平野町長からご挨拶を頂戴したいと存じます。平野町長、よろしく願います。

○平野町長 皆さん、こんにちは。本日第1回目ですが、本当は今年度中に2回目を開催したいと考えておりますが、昨年度は年が明けてから、今年度は10月に滑り込んだのもう一回はできるのではないかと考えています。

そういった中で、総合教育会議は地方教育行政の組織及び運営に関する法律の改正に伴って、教育委員会と地方公共団体の長が協議を行う場として、平成27年から開催しているものでありまして、美幌町においても教育課題を皆さんとお話しをしようとするものであります。

皆様方とこういう会議だけではなくて、いろいろ協議する場を設けなければならないのですけれども、なかなかできていないことに申し訳なく思っています。逆に、今日副町長も同席頂いていますけれども、私、副町長、教育長の三者で定期的に懇談していますし、

何か決めるときには三人の意思を統一して判断させて頂いていますので、そういう意味ではしっかり教育長に伝えていただければ皆さんの想いは私に伝わると思っています。

一番いいのはこのように顔を見て、直接お話しできるのが一番いいというふうに思っています。

教育を取り巻く環境は非常に複雑になってきていて、多種多様で難しくなっています。そういう意味では、教育委員の皆さんの役割も非常に重くなっているとは存じますが、どうか美幌町の教育の発展振興に引き続きご協力をお願いしたいと思います。よろしく願います。

○遠藤教育部長 ありがとうございます。続きまして、教育委員会を代表いたしまして矢萩教育長よりご挨拶を申し上げます。

○矢萩教育長 皆さん、こんにちは。令和3年度第1回総合教育会議開催に当たりまして、教育長として一言ご挨拶申し上げます。

昨年から続いておりますコロナ禍の影響は教育現場においても様々な制限などがありますが、子どもたちを始め町民の皆さんの健康・安全を守りながら学びを止めない活動をしつかりと進めているところであります。

現在の教育は様々な課題に直面しており、教育に対する社会の要請や教育行政を取り巻く社会情勢の変化に、敏感に対応しながら町民の信頼にこたえる教育をしつかりと実現していかなければならないと認識しているところであります。

中でも学校教育について申し上げますと、明日の人材である子どもたちは美幌町の財産であり、本日の議事にもありますが、年々子どもたちが少なくなっている今日において、子どもたちは地域の宝であり、成長は地域の希望でもあります。

本年度から小中学校において全面実施されました新しい学習指導要領では何ができるようになるのかという観点から地域及び技能、思考力、判断力、表現力など学びに向かう力、人間性などの三つの柱からなる資質能力を総

合的にバランスよく育てていくことを目指しています。

この実現のため、教育委員会として学校で学んだことが生きる力となって、明日にそしてその先の人生に繋がる様、社会の変化を見据えながら個別最適な新たな学びの充実のためにあらゆる課題にしっかりと向き合っていきたいと考えております。

本町の教育の基本であります美幌町教育目標の人間性豊かな教育を目指した実現のため教育委員の皆さんと十分に協議し、皆さんと合意を得て顔の見える教育委員会として様々な教育課題に積極的に取り組んでまいりたいと思います。

本日は短い時間ではありますが、美幌町の教育の状況を平野町長と共通認識させて頂き、平野町長の一層のご支援をいただきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

○遠藤教育部長 ありがとうございます。

続きまして、議事に入らせていただきますが、これより先の議事進行につきましては、美幌町総合教育会議設置要綱第4条の規定により、町長が会議の議長となりますことから、平野町長にお願いしたいと存じます。よろしくをお願いいたします。

3 議 事

(1) 美幌町図書館の整備検討について

○平野町長 それでは、お手元の会議次第に沿って進めさせていただきます。

議事(1)美幌町図書館の整備検討について事務局から説明をお願いするわけですが、会議の中での発言につきましては、着席のままで進めたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

また、発言の際には挙手をお願いしたいと思います。

それでは、館長、説明よろしく申し上げます。

○竹花図書館長 私から、整備検討委員会が進んでいますので、途中経過について簡単にご説明いたします。

資料1がお配りされていると思いますが、5ページをご覧ください。整備検討委員会の設置要綱があり、第2条に検討する内容が書かれています。

一つ目は整備基本構想の策定についてです。二つ目は基本計画に関することです。この二点について2年間をかけて検討することになっています。

資料の1ページ目に戻ります。

今までに4回検討委員会を行いました。第1回は令和3年6月24日に実施しました。当初は5月スタートを予定したのですが、コロナの関係で延びました。そこで、委員の委嘱状をお渡ししたのですが、4ページに検討委員の名簿を載せています。公募を含めて12名の委員となっています。その他に事務局として教育長、教育部長、図書館職員の4名がこの会議に入っています。その他にもう一人、吉田真弓教授のプロフィールが書いてありますが、帯広大谷短期大学の副学長で検討委員会のアドバイザーとしてお願いしています。

資料1ページに戻ります。

1回目の時にはそれぞれ自己紹介をして役員委員長、副委員長を決めました。

事務局からこの会の趣旨、今後のスケジュールを説明した後、私の方から現状として図書館の問題・課題について、それから昨年度実施しました町民アンケートの結果について説明させて頂きました。内容については後程説明いたします。

第2回目は7月9日に行いました。この時、アドバイザーの吉田教授に講話を頂いています。「現代の図書館の課題・情報の提供」ということで、全国的な図書館の課題、具体的には図書館の利用や時代と共に図書館の役割は変わっていることなどを説明頂きました。吉田先生の話聞いた中で、各委員から色々な意見をいただきました。

第3回目は本来であれば9月に先進地の視察をしたいという思いはありましたが、緊急事態宣言のため殆どの図書館が休館しておりましたので、一昨日の10月27日に行っていました。

2ページになります。

4回目として10月8日に委員会を開きました。本来であれば3回目の時に視察をして、視察を踏まえて委員会の中で原々案のようなものを作って、第4回目に提示する予定でしたが、視察が出来ませんでしたので事務局で原々案を提出して話し合いました。

また、アドバイザーの吉田先生には全国的に有名な幕別モデルの取り組みを行っているのので、それについての説明があり、併せて構想に向けて委員の意見を交流しました。

5回目は一昨日ですが、コロナで延期となった視察です。行った先は美瑛町の図書館と東川町のせんとびゅあという施設の二つを見してきました。

ここを選んだ理由は日帰りできることが前提でしたが、美瑛町は美幌町より小さな町ですけれども、美幌町に似ていて博物館と図書館をそれぞれ単体で持っています。

美瑛町の図書館は2012年にオープンしていて、外は普通ですが中はその土地の木材を使用し多くの補助金をいただいている、中が落ち着いた雰囲気のある素敵な図書館でした。

東川町は複合施設の図書館ですが、検討委員会の中でも複合施設という事が出ていましたので視察しました。

美瑛町は人口1万1千人で蔵書数が7万冊、来客数は5万人で美幌町と同じくらい、貸出数は8万冊です。大体、蔵書数と貸出数は同じくらいになるのですが、東川町は来館者数が19万人と飛び抜けています。これは、図書館を含んだ複合施設の入場者数で、全国的に有名な日本語学校があり、かなりの留学生が来ており、その宿舎と学校の隣に図書館があります。私共は図書館の中に複合施設がたくさんあると思ったのですが、違っていました、元小学校の敷地の中に、小学校を改造した日

本語学校と隣に単独で図書館がありました。敷地の中の施設全てを複合的に捉えて取り組んでおり、初めのイメージとは違っていました。

家具の町であり、椅子の展示など色々な工夫がされていて、大変居心地の良い図書館でした。ただし、図書館となると補助金が無いようなので複合施設として補助金を頂いて、その中に図書コーナーがあり、図書館の館長はいませんので、元大学の教授ですが、学校含めてせんとびゅあとしての施設の館長がいます。

発想が全く違うのですが、町民をたくさん巻き込んで色々なイベントや行事、展示会等を行っていて大変参考になるところがあり、今後の図書館づくりの資料にしたいと思いました。

3ページになりますが、検討委員会の中で出てきた意見を載せました。

まず、図書館の現状という事で、43年経っているのですが町の施設としては大変斬新で、その当時色々なところから色々な人が視察に来たということで、今でも十分通用する図書館とっていますが、43年経っていますので、暖房やトイレ、一番気になっているのはエアコンが無いので夏が暑く、今はエアコンの無い図書館は無いと言われていまして、そういったところが課題です。

もう一つ気になっているのが、当初5万冊の蔵書でスタートして、現在15万冊になっています。もう置く場所が無いくらいになっていますので、この形で維持するのであれば、今の図書館では厳しいということです。

もう一つ、町民からのアンケートにもありますが、駐車場が狭く、普段はそうでもないのですが、イベントをするときは不足する事態になっています。

二つ目に町民アンケートからの要望はたくさんあるのですが、多かったものを挙げていきます。

居心地の良い図書館、安らげる空間が欲しい、それから中学生・高校生と思いますが、

個別に学習するスペースが欲しい、広い駐車場が欲しい、徒歩で行ける場所・街の中にあって欲しい、高齢者や障がい者にやさしい施設であってほしい、多かったのが北見市のような図書館、カフェ等飲食のできるような図書館でした。

小学校5年生から中学校3年生まで全員にアンケートをとっており、その中に出てきたのはゆっくり本が読める場所、くつろげる空間、勉強が出来るスペースで、今の中学生・高校生が試験の期間になると来るのですが、スペースがないものですから、お断りすることもあります。それからインターネットが気軽にできる環境、意外だったのが高齢者、障がい者に優しい図書館がありました。

吉田先生からのアドバイスで、一番強く言っていたのは建物を建てるに当たっては、どんな建物ではなく、どんな機能を図書館に持たせるのかということをしっかり考えないといけないと言われましたので、肝に銘じたいと思っています。

その中で、80歳、90歳といった方が増えてくる超高齢社会に対応するのが図書館の役割であること、町民の知識や技術を生かせる事業、システム、人的資源の活用が必要、町民の情報資源を結びつける機能、ホームページが楽しくないと人は来ませんということであり、遊べて楽しいホームページを作ること。また、これは反対のものですが、有名なデザイナーや建築家の図書館が紹介されました。例えば、東京オリンピックの陸上競技場を設計した隈さんなどで、素晴らしいけれど実際運営してみるとデザインが強すぎ、使い道が偏ってしまうなど有名な建築が良いとは限らないという事でした。他に、四角い図書館が機能的であること、私を含めて職員が確固たるビジョンを示すこと、アンケートも行ったようであるが、もっと色々な人の意見を聴いた方が良いということでした。

先生の意見を聴いた中で整備検討委員から色々な意見をいただいています。今、図書館に来ている町民は3割5分くらいであり、

6割以上の方が使っていませんので、人が集まる図書館、行きたいと思う図書館にしましょうということ、中学生・高校生が図書館で勉強したくなるような環境、0歳からの事業を行っていますが、とぎれのない活動や事業の工夫、学校・家庭の次の子供たちの第3の居場所となる図書館、テレワークができる図書館、社会人のスキルアップを支援する図書館、コミュニティとしての図書館、東川町はそのような感じでしたが町の核となる図書館、遊び心のある場所、住民の活動を巻き込む図書館、関係しますが図書館に人を呼ぶ工夫、事業、施設、PR手段の検討、インターネットをもっと活用して、SNSによる情報発信をしたらどうか、現在美幌新聞をデータ化していますが色々なものをデジタル化すると便利になるのではないかなどの意見が出ています。

これらを踏まえて、11月に基本構想の大元を話し合っていく、最終的には2月にきちんとしたものを策定して提示したいと思っています。

6回目と7回目の間が空いていますが、できればその間にもう一回くらい会議を設けたいと思っていますが、こういった形で令和3年度進めていき、構想が設定出来たら来年度は計画に入っていきたいと思っています。

このような形で、より良い図書館、町民に親しまれて使いやすい図書館を目指して検討していきたいと思っています。

○平野町長 ありがとうございます。今、竹花館長から図書館の整備検討という事で、検討経過を説明頂きました。

初めに館長から説明して頂いた内容で、皆さんから何かお聞きすることがあればご発言をお願いしたいと思います。

例えば、町民アンケートから聞いていいですか。

居心地の良い図書館、安らげる空間というのは言葉ではなんとなくわかるのですが、具体的にどうなっていれば居心地が良いのか、北見のようなというのはどういったところが

良いのか、補足するものがあればお話しただけですか。

○竹花図書館長 居心地は人によって違うと思いますが、視察に行った東川町では椅子の町なので椅子の座り心地が良く何十万円もするテーブルが置いてあり、そこでは飲食自由で昼寝もOKです。話しも自由にできます。広い空間でゆったりと座り、語り合えるというのも目指すところなのかなと思います。

北見のようなということでは、カフェがあったり、座って外を見ることができる個人のスペースが結構あり、必ず座れますので、そのようなところなのかなと思います。本の数も多いですし、綺麗ななのでそのような施設を作りたいということを書いていた方もいます。駅にあるので、学生が使いやすく行きやすい、また、町の中心なので便利さもあります。

○平野町長 町民アンケート、小中学生のアンケート、吉田先生からのアドバイスの中で、高齢者、障がい者に優しい施設という風には書いていたというのはバリアフリーとか特筆するものがありましたか。

○竹花図書館長 美幌の図書館は本棚と本棚の間が狭く、電動車いすで来られた方が通れないところがあります。トイレも古いので使いにくかったりしますので、そういったところだと思います。

吉田先生は高齢者でも元気な方が居て、過去の経験や技術・知識をたくさん持っている方がいるので、そういった方が頑張れる、力を発揮できるような環境を作っていくのが必要で大事であるという提案を頂いています。

○平野町長 わかりました。皆さんの中で、報告を受けた中で聞いてみたいことがあればご発言をお願いします。

○大沼委員 町民アンケート、ここに挙げられているのは多かった意見とおっしゃっていましたが、この中で館長がこういうことも考えられるんだなという少数派の意見などはありましたか。

○竹花図書館長 今の図書館は立派なので

建て替える必要はないのではないかという意見もありましたし、森の中あるいは公園の中でゆっくりリラックスできる環境の中で図書館を建てて欲しいという意見もありました。

○平野町長 よろしいでしょうか。他に何かございませんでしょうか。

それでは、皆さんのご意見を伺いたいと思います。これから図書館を建設していく中において、色々な意見要望がある中で図書館にどんな機能を持たせたらよいのかということの観点からご意見や逆にこういうことはどうなんだろうかということでもよろしいので、ご意見あればご発言をお願いします。

○加藤職務代理者 今の図書館が築43年という事で、43年の間でバージョンアップされていると思います。社会の変革で大幅に変化しているだろうと思いますが、43年のことを考えれば電算化という事、ネットワークを作るという事、北見を中心としたオホーツク圏の図書館のネットワークシステムは全国でも類を見ないほどの歴史を持っているものがありますし、素晴らしいネットワークが出来ています。こういったものの中に入っている美幌の図書館を、こういったものを活用してこれからの図書館づくりに生かせるのではないかと思います。

3年ほど前、恵庭へ視察に行った時に、学校の図書室と結んで学校に居ながら図書館の本を借りることができていました。学校での管理も先生が主体的になるのでしょうかけれども、実働では子どもたちに体験させているようなことを見させていただきました。子どもたちも生き生きとそれをきちんとやっているし、指導している先生たちのところを目掛けて行くような子どもたちもいました。終業のとたんに随分たくさんの子供たちが来ていたという覚えもありました。

ああいったことを図書館の整備に当たって、学校とも連携を取っていく。また、子どもたちにとって読書習慣も大事なことであり、大きな期待も持ちました。

読書習慣という観点からみると、成人にな

った方、仕事を終えてリタイアされた方々が図書に触れて欲しい、高齢者の方が来やすいような雰囲気にしてほしい、元気な方もそうでない方もどんな方も行けるような形を作って、そして脳の活性化、健康寿命に大きな効果、期待が出来るものだと思います。

図書館フェスティバルがありますが、それ以外にも映画の鑑賞会であるとか、レコードコンサートですとか、図書と直接つながらないこととか、図書に興味の無い方に展示スペースをもう少し作って頂いて、博物館にある様々な展示物を置き、様々な方が本に触れる機会を作って頂くことはできないかなと思っています。

今の図書館では2階の視聴覚室でコンサートを行ったりしていますが、入ってすぐの階段を上ってしまいますから、本と触れ合う機会がなかなかないと思います。ですから、本の中を通っていけるような、そんな造りがあると良いですし、私はどこにでも本があるような家で育ったものですから、その影響は少なからずあると思います。

先程の恵庭の話ですが、確か、まちじゅう図書館と言っていたと思います。そういうような雰囲気を作れば、本に興味の無い方も少なからずそこで影響を受けるのではないかなと思います。

以前、図書館長でありました中川先生が館長を辞められるときの退任の挨拶で、大好きな本の中で仕事が出来たことが本当に嬉しかったとおっしゃっていたことを覚えています。本の中にいるだけでも幸せな気分になれるような、そういう人が増えるような、爽やかな風が通るような図書館にして欲しいと思います。本を読まなくても本のことが気になるような、そういう人たちがやがて本に触れ親しんでいくような、そんなふうになっていくくれたらと思います。

子どもたちのためにも高齢者の方々にも本に触れる機会を増やすような、そういうように進めて行ってもらえればと思います。

デジタルも良いのですが、実際に本に触れ

るといふこと、本をめくって受ける雰囲気もあると思います。

批判する訳ではありませんが、北見の図書館ということがありました。これは立地のお陰で人は集まってくるかもしれませんが、図書館としての何かを失ったような気がします。ですから、そういったことがないように、爽やかな風が吹くような図書館になるように願っています。

○平野町長 貴重なご意見ありがとうございます。ネットワークが大事だという事で、私も教育長時代に、加藤職務代理者からご紹介のありました恵庭ですね。恵庭は元々図書館についてはこだわっていて、ブックスタートも中島興生市長の時に打ち出したこともそうですし、まちじゅう図書館についても思い出しました。あとは職務代理の方から図書館を作る想いというか、期待するものをお願いしたこと、館長がレコードコンサートを行ってくれたり、映画も図書館で実施していますので、目で本を読むという以外にも音を感じるとか映像を見るとか、そういうことを望まれているのかなと思います。

爽やかな風という事で、何となくイメージがわかりますが、本の中を歩くことが爽やかな風が吹くという雰囲気だと思います。

私も本が好きで、家にたくさん本を置いてあり、読むことよりも本の中に居られることの幸せを感じてきていて、非常に共感するところが多いご意見だと思います。本当にありがとうございます。他にありませんか。

○大沼委員 美幌町は図書館や学校で読み聞かせの活動をしています。ボランティアの数も十分でないことや、去年からコロナの問題もあって子どもたちへの読み聞かせが限られてしまっています。

それ故に、各家庭での幼少期からの読み聞かせは本当に重要であって、家庭でお父さんお母さんだけではなく、おじいちゃんおばあちゃんもお孫さんに読み聞かせを行うことは、共稼ぎのご家庭が多いので大切だと感じています。そのような高齢者の方々にも読み聞かせ

をはじめとする美幌町の子どもたちへの今の状態や情報などを図書館が提供する役割は大きいと思っています。また、小中学生のアンケートからの要望で勉強が出来るスペース、ゆっくり本が読める場所、くつろげる空間とあるのですが、先程館長からも勉強が出来るスペースで机とかが無くて断る場合もありますということで、こういうことで断るのも可哀そうですし、もう少したくさんの子供が勉強できるスペースが必要かなと思います。

子どもたちが一人でも行けて、友達同士でも行って安全に学べる場所ですね。保護者も図書館で勉強しているんだ、安心だねと言えるような図書館になれるよう、教育委員として皆さんと考えていきたいと思っています。

○平野町長 ありがとうございます。本当にボランティアの方々に図書館は成り立っているというのは感じておりますし、なかなか司書の十分な人数の確保が難しい状況であります。幼少期の読み聞かせという中で、高齢者社会に対応するというものでは役割として元気な方が多いという話で、私も岡部さんによく推薦する本をお願いしていて、本を縦に入れて置くだけではなく、面にして展示しなかったら絶対見ないよと言われていて、私の家も棚を作って並べてあるんですね。孫なんか来て気に入ったらそれを持って行って母親とか妻に読んでということがあります。ご意見いただいたことは非常に大事な事かなと思っています。

勉強のできるスペースについてもお話いただきましたが、小学生の低学年では学童保育に入っているんでしょうけれど、ある程度の年齢になった時に居場所を作っておかないと家に帰っても一人であり、そういう意味では皆さんと一緒に遊ぶということも大事かも知れないけれども、みんなで学んで一緒になって勉強する空間ということでは、大沼委員がおっしゃったことも理解しますし、大事なことだなと感じています。

ぜひ、こういうことをしっかりと受け止めた中で今後まとめていただければと思います。

○東海委員 どんな機能を持たせるかという観点なんですけれども、先程、東川町のお話にもありましたように、今の時代の流れから言いますと、複合化は避けて通れないのかなと思います。カフェをはじめ、今はホテルも一緒になった図書館もあると聞いています。

一方、来年度以降コロナが落ち着いたらラグビー合宿やデュアスロンも再開できるのかなと思うのですけれども、そうなった時にグランドホテルがなくなってしまったのは影響が大きいかなと思います。そういうことも考えの一つになるのかなと思います。

図書館を何と合わせるかによって場所も変わってくるのかなと思いますし、場所によって何があったら良いのかという話も出てくると思います。

そういう機能や役割を検討するに当たっては、今後とも町長と教育委員会がより一層連携し、整備検討委員さんはじめ幅広い人の意見を聴いて進めていただくようにお願いします。

○平野町長 ありがとうございます。今、東海委員から複合についてお話いただきました。非常に頭が痛い話で、ホテルの話ですが、本を何冊も借りて、隠れ家のように本を読める空間を作っているホテルも見ており、なるほどなと思いました。

多分、図書館を建てる部分に対しては基本的にはどんな機能を持たせるかをベースに、ひょっとしたら何が追加されるか、複合化されたらアルファがつくので、そういう意味でご発言していただいたと思うので、検討する皆様方でいろいろなお話をされて、そのためには私も教育長にもこういう複合化はどうなんでしょうかということをしかり情報提供して検討いただければいいのかなと思っています。

今日、図書館が大好きな小川委員がいないのが残念ですが、3人の委員さんの意見を聴きながら、ここで教育長の想いも含めてご発言いただければ有難いので、よろしく申し上げます。

○矢萩教育長 先程、竹花館長から整備検討委員会の検討状況を報告させていただき、教育委員さんからもご意見いただいたところでもあります。

本当に子供からお年寄りまでの全ての世代が集えて学ぶことができるような居場所づくり、そのためには図書館に行ってみようと思えるような仕掛けづくりが非常に大切だと思っております。

整備検討委員会では東川、美瑛と行って、それぞれ検討委員さんのイメージも膨らんでいると思っています。

これから検討委員会を何回か予定していますが、その中で図書館を建てるというハード面の検討と並行して、目指す図書館像、どんな図書館にしていくか、どんな役割を持ってどんな機能があるかといったところを実現していくための役割、サービスの中身の部分、そこについて素案を作り上げて、基本構想・基本計画とそれぞれの段階で教育委員さん、平野町長にもご相談申し上げながら進めていきたいと思っていますので、よろしくお願ひします。

○平野町長 ありがとうございます。私が教育長時代の時から図書館は検討していた中で、途中で形がいったん消えてしまいましたが、一般質問等において議会の方から図書館についてどう考えているのですかと聞かれ、私の任期中になんとか最低基本設計まで進めたいというお話をさせていただいています。

そのとおりでできるかどうか、これから財政計画とか色々立てた中で、資金の見通しを内部でしっかり協議をし、時期なども決めていきたいと考えています。

そういう意味では検討委員会の中で、しっかり図書館の本質的なものをきちんと町民の方々に伝えていただく、やはりこういう図書館を町の中に建てたいという想いを整理していただくのが一番いいのかなと思います。直接一番関わるのは教育委員会であり、教育委員の皆さんが最終的に教育委員会としての判

断をしなければいけないという立場でございますので、引き続きよろしくお願ひしたいと思います。図書館についてはこれで終わりにしたいと思います。

(2) 美幌町立学校の最適化について

○平野町長 次に、美幌町立学校の最適化について事務局からご説明をお願い致します。

○多田学校教育課長 それでは、私から「美幌町立学校の最適化について」資料に基づきご説明させていただきます。

資料2をご覧ください。「美幌町立学校の最適化」としまして、美幌町の学校の現状を基に、学校最適化の検討について記載しています。

まず、現在の美幌町立学校の現状であります。小学校が3校、中学校が2校ありますが、学校の児童生徒数は少子化によって減少傾向が続いています。

昭和57年に旭小学校が開校しており、その年の児童生徒数は3,766人おりましたが、今年、令和3年には1,243人で約3分の1に減少しており、毎年の減少傾向から、今後も児童生徒数の増加は見込めない状況となっております。

ここで、少子化による児童生徒数の減少を表す資料をご覧いただきたいと思ひます。

まず、1点目ですが、この資料の3ページをお開き願ひします。「年度別出生数の実績・推計」です。

平成22年度から令和2年度までの実績値と、令和3年度から令和5年度までの推計値を記載しておりますが、令和3年度以降の数値は福祉部で作成された「美幌町子ども・子育て支援事業計画」を基としております。

年々出生数が減少しており、令和元年度に一旦増加しましたが、令和2年度は74人で、新型コロナウイルス感染症の影響と思われる数字になっております。

令和3年度以降は100人ほどで推移していますが、平成22年度と令和5年度を比較しま

すと68人もの出生数減であり、非常に厳しい状況ではないかと思われます。

次に4ページをお願いいたします。

「児童・生徒数の推移」です。過去40年間の小学校、中学校の児童生徒数になります。

毎年5月1日現在で調査しております、学校基本調査による在籍数であり、右の欄にはその年に開校・閉校した学校を記載しています。

昭和57年に旭小学校が開校しましたが、その後、10校の小学校が閉校しており、先程もご説明しましたが、昭和57年に3,766人であった児童生徒数が、現在は1,243人と約1/3まで落ち込んでいることがわかります。

続きまして、5ページをお願いいたします。こちらは「小学校入学者の学校別実績と推計」になり、上段の①が実績値、下段の②が推計値となります。

まず、上段①の入学者の実績であります、平成25年度から令和3年度までを掲載しております。

平成25年度は福豊小学校最後の年で、4校合わせた入学者は164人おりましたが、本年度は3校で104人と、60人の減少となっています。

下段の②は推計値になり、2ページでご説明いたしました出生数が基数字になりますが、令和9年度までは教育委員会で管理する「学齢簿年齢別人口統計」による実数値を掲載しております。

このため、3ページ目の出生数がそのまま入学者推計とはならないことをご承知お願いたします。

なお、令和10年度以降はこれから出生する子どもの数となりますが、先程3ページでもご説明しました「子ども・子育て支援事業計画」の数字で作成しております。

この推計を見ますと、100人前後で推移していますが、令和9年度のみ77人と少なくなっています。

これは、新型コロナウイルスの影響によると思われる令和2年度の出生者数を反映した

もので、極端な数字となっています。

続きまして、6ページをお願いいたします。こちらは「中学校入学者の学校別実績と推計」になり、先程の小学校同様、上段の①が平成25年度から令和3年度までの実績値、下段の②が令和4年度から令和12年度までの推計値となります。

①の実績では、平成25年度と令和3年度を比較すると28人の減少となっています。

②の推計では「学齢簿年齢別人口統計」により実数値を掲載しておりますが、①の実績の減少数と比較しますと、令和4年度から令和12年度の間は減少数が55人で、およそ2倍の数字になっており、令和12年度では99人と二桁の数字になっています。

以上を踏まえまして、次の7ページから10ページで、具体的な小学校、中学校の学級編制を見ていきたいと思えます。

まず、7ページをお願いいたします。小学校になりますが、ここでは、特別支援学級の児童を除かなければ実際の学級編制は確認できませんので、これまでの実績を基に、入学者のうち10%を特別支援学級の児童と仮定するため除いています。

現行の学級編制は、国と北海道において少人数学級制度を適用しており、制度上は1クラス40人学級であります、現在、国は小学1年生と2年生を35人学級に、北海道では小学3年生から4年生まで、そして、町単独で小学5年生、6年生を、それぞれ35人学級で取り組んでおりますので、本町の小学校では、全学年で35人学級を実現して学校経営が進められてきております。

なお、国では来年度以降から、小学3年生より順次35人学級に移行することで、進められていきます。

この「普通学級の年度別推計」につきましては、例えば、5ページにある小学校入学者の推計で、美小であれば令和4年度は40人の入学者数ですが、このうち10%を除いた36人を、7ページの美小の令和4年度の1年の欄に記載しています。

そして、この普通学級の生徒数を基にその右側の学級数と1学級の平均人数を算出しています。

以降、このように特別支援対象者10%を除き、各年度の児童数、学級数、学級の平均人数を示しており、7ページは令和4年度から令和8年度までを、8ページは令和9年度から令和12年度までの推計を記載していますので、それぞれご確認いただきたいと思います。

なお、旭小学校では既に全学年1学級であります。東陽小では、8ページになりますが、令和10年度から全学年が1学級になる推計となっております。

続きまして、9ページをお願いいたします。こちらは、中学校の状況になります。

中学校における少人数学級は、北海道におきまして、中学1年生を対象に35人学級を実現しておりますが、2年生・3年生は制度がありませんので、例えば、1年生で37人であった場合は、1年生のうち35人学級が適用されるため2学級編制ですが、2年生に進級すると40人学級に戻るため、1学級編制になります。

内容になりますが、考え方は小学校同様であります。これまでの実績から中学校の場合は新1年生の内、5%の生徒が特別支援学級者と仮定しています。

9ページは令和8年度までになり、10ページは令和12年度まで掲載しておりますが、令和8年度から両中学校ともに1学年2学級の推計となっております。

以上の少子化に伴う児童生徒数や学級数の現状、推計を踏まえまして、資料の1ページに戻っていただきたいと思います。

1ページ中ほどからになりますが、少子化による学校の課題・影響について触れております。

この少子化が進んでいきますと、学校では学級数が少なくなることや教職員数が少なくなることなど、学校運営にも様々な影響を及ぼしていきますので、考えられます学校の課題・影響について記載しています。

まず、「①学級数が少ないことによる学校運営上の課題」としましては、クラス替えができないことや、クラス同士が切磋琢磨する教育活動ができないことなどが挙げられます。

次に、「②教職員数が少なくなることによる学校運営上の課題」としましては、経験年数、専門性、男女比等バランスのとれた教職員配置や指導の充実が困難となることや、チーム・ティーチング、グループ別指導、習熟度指導、専科指導等の多様な指導方法をとることが困難となることなどが挙げられます。

次に、「③児童生徒に与える影響」としましては、集団の中で自己主張をしたり、他者を尊重する経験を積みにくく、社会性やコミュニケーション能力が身に付きにくいこと、児童生徒の人間関係や相互の評価が固定化しやすいことなどが挙げられます。

今後、このような課題を解消していかなければならない状況下におきまして、本年1月26日の中央教育審議会の答申では、2020年代を通じて実現すべき「令和の日本型学校教育」の姿として、個に応じた個別最適な学びを充実させ、子供同士あるいは多様な他者と協働しながら必要な資質・能力を育成する協働的な学びも重要とされているところであります。

また、この答申の中では義務教育9年間を通じた教育課程、指導体制、教師の養成等の在り方について一体的に検討を進める必要があるとの考え方も示されておりますが、この義務教育9年間を通じた教育課程、指導体制としましては、国において推進しています小中一貫教育が当たりますので、今後の美幌町の学校教育においては、この小中一貫教育を基本とした教育環境の向上と、今後も進んでいきます少子化に対応した学校数の見直しや配置についての検討が必要であるため、地域を交えて「学校最適化」の検討を始めていきたいと考えているところであります。

以上、学校の最適化についてご説明させていただきました。

○平野町長 ありがとうございます。皆さ

んから説明に対する質問がありましたら、ご発言をお願いします。

○加藤職務代理者 資料の7ページ以降について、10%は特支として仮定して除くという説明があり、10%を引いた数が載っているということですが、この10%というのはどういふところから出てきた数字なのでしょう。

○多田学校教育課長 こちらは今までの特別支援学級の児童生徒の数、実績を基に、概ね10%程で推移しておりますので、その10%を仮定として算出しています。

○加藤職務代理者 仮の話ですから一つの基準として計算を進めていくことという事でよろしいのですね。

今、感覚的に持っている印象としては増えていっている傾向があると思います。そのことは度外視して仮定の数字ということではよろしいのですね。

○遠藤教育部長 最低ラインという事です。職務代理がおっしゃるとおり徐々に増えていっているのが現状です。ただ、これまでの5年間では大体1割の子供が特支の子供という事で算定しています。

○平野町長 私の方からお聞きしたいのですが、実績と推計を見た時に例えば6ページを見ていただきたいのですが、中学校の見通しで下に入学者の推計を見れば小学校から繋がっていくんですけど、令和4年度から令和12年度からいけば、令和8年の時と令和9年から、ちょうど今年あたりからのギャップというか、令和4年から令和8年までが140台の前後というイメージが、残り9年から令和12年まで100人前後、ちょうど今年位を境にして30人くらい傾斜率がガクッと落ちる認識でいいのですね。

ここが皆さん危惧しているところというか、今までの推計を見てきた中で行けば少し減っていくだろうという想いと、私が教育長の頃のなだらかなイメージが今年を中心くらいにして、これからの推計がドンと30人くらい落ちて傾斜が下がっていくと、ここが自分の認識と相当違ってきたという事で非常に危惧し

ているというか、気になっているところでもありますけれども、そういう認識で良いのですね。

○遠藤教育部長 これは実績値になりますので、まさに下がっていくということになります。

○矢萩教育長 令和9年度であれば平成26年度生まれになりますので既にいる子どもです。

○遠藤教育部長 転入は見込めず、転出が多くなると思いますので、もっと少なくなると思います。住民基本台帳からの、今いる子どもたちの数になります。

○平野町長 3ページの出生数の推計に戻るのですね。100からどんどん落ちていくということで、私が当時推計した時には、当面は100以上、110は維持するだろうという推計値は持っていましたが、わかりました。

それでは、皆さんと意見交換をしたいと思いますが、最初に少子化が進んで学級数が少なければどうなるというよりも、2ページを開いていただいた中で、これからの教育の在り方について、私が町長になって教育長にお願いしたのは、これからの教育は1年生から9年間を通した一貫教育を考える必要があるという事をお話ししていました。

そういった中で、建物が一緒になれば義務教育学校として建て替えているところもありますが、一緒にならなくても一貫的な考えを学校でしっかり持ってくれば、教育委員会で指示を頂ければと思うんですけども、皆さんから小中一貫教育ということで何か感じるものがあれば、逆にこんなことが懸念されるというものがあれば、皆さん教育委員さんですので、普段からそのようなお話はされていると思いますが、ご意見を頂いてよろしいでしょうか。

例えば中1ギャップがあつたりすることを考えると、きちんとした一貫教育、今風でいけば義務教育学校として9年間を一つと位置付けると、ただそれが一つの学校、一つの校舎でということは置いておいて、そういう流

れなのかなという自分の認識です。

○大沼委員 美幌町の今年度、学力・学習状況調査の結果では、全国・全道平均と差がある結果です。これが全てではないというのはわかっていますが、クロス集計で毎日朝食を食べる子や新聞を読む子の正当率が高いということと、家庭学習を1時間以内全くしないの割合が高いという結果が出ているんですね。それを踏まえた時に、基本的な生活習慣である早寝・早起き・朝ごはん、そして家庭学習と、それに取り組むためのルールづくりを幼少期から行うことが本当に大切だという事を日々感じています。

小中一貫校になった場合に、スムーズにそれができるよう小学校に上がる前の幼稚園・保育所の段階で切れ目ない子育て支援の体制をする必要があると感じています。小学校に入った時に、全ての子がよーいドンとスタートできれば先生方も楽だと思います。余りにも子どもたちに差があり過ぎると先生たちも大変ですので、それがスムーズに行くように、前の段階で支援してあげるといいのかなと、それが保護者もそうですけれども、浸透できるようなまちづくりが大切だなとも思っています。

○平野町長 ありがとうございます。基本は6年、3年の9年間に、プラスそのスタートですから、小学校に入る前の保育所や幼稚園との小学校との切れ目もということは、当然、中学校から高校への繋がりも流れを持って教育をしていただくべきだというお話をさせていただきました。

この辺は教育長に委ねるものとそれぞれに関わる担当の方、美幌の高校の担当については私が教育長の時に教育委員会でサポート、関わっていくこととして、今も教育長が継続して頂いています。ある意味で大沼委員がおっしゃっていただいたことは努力次第なのかなと思っています。

次に、切り口を変えて地域と共に歩む学校ということで、学校運営協議会を教育長に作って頂きましたが、地域がしっかり学校に関

わるという事をやっていただき、地域みんな子どもたちを育てていくということについて、ご発言頂きたいのですが。

○加藤職務代理者 地域と共に歩む学校ということで、学校を地域の核とした施設で維持していきたいという発想としましたが、地域の人学校に入ってくるその様子というのは色々な学校の視察に行きましたが、午後からどのような活動をするか打ち合わせをしながら放課後を迎えて、子供たちが見れて、その中で活動されている様子を見ました。実際に、高齢者の方ではただそこにいるだけでも学校に関わりたいという事があると思います。

子供にとっては社会生活が昔からは変わっており、色々な方々から色々なことを言わなくなり、近所の方から教えてもらう・叱ってもらうことが少なくなっているでしょうし、そういったことを進めていくうえではいい発想で大事なことであるなど思っていたところに学校運営協議会の制度が重なってきたということで、これは一体化してやれるものではないかと思っていましたし、それ以前からコミスクというものが美幌のスタイルとしてありました。その方々が学校に随分と入り込んでいただいて、色々な活動をしていただいていますし、また、見守り隊の活動もあります。色々な方々の関わりの中で登校時に知らないおじさんが青いベストを着ておはようと声を掛けてくれて、子どもたちもおはようございますと挨拶をする習慣がされているような実績のある中に新しい取り組みがされていくことで、より盛り上がっていくのではと思います。

学校運営協議会も立ち上がりました。応援してくれる人もいらっしゃいます。ただ、コロナの状況で実際の活動がなかなかできないということで、本当に残念、歯がゆい思いをしています。コロナが出た後にこういった方々の力が入っていき、切れ目のない持続された中で一貫してされているという事が出てくるとより一層効果を上げ、縦の線だ

けではない膨らみも増していくような気がします。

学校というところは知識を身に付けて、知識を糧に知恵を磨いていくということもあると思います。そのためには子ども同士が切磋琢磨していくということも大切だと思います。午前中私がお会いした方も社会教育をされており、学校の方で色々なことを教えてくれている方で、そういった方々の力を頂くとか、スペシャリストではないけれども人生経験豊富な方からお話を頂くとか、生きる力を育んでいくということでも大きな力になるのかなと思います。ですから、地域で子どもを作る、地域で育ていけば地域で活躍をする、その中で地域に愛着を持った方が戻ってくる、そういうことで地域を活性化できるような将来が実現できればと思いました。

○平野町長 ありがとうございます。職務代理の想いを伝えてもらい、非常に嬉しく思っています。

私も地域のコミュニティは大事ですよと話しています。地域コミュニティを学校中心にというお話しをした時に、学校1校1校のコミュニティをずっと維持するという事ではなく、学校に対して色々な方が関わってもらって、地域の子どもは地域が育てるという事をやってもらった中で、美幌としての大きさというか、子どもたちが減ってきた時に学校の在り方を考えなければならない時がくるのかなと思います。

その時に考えて欲しいのは、学校の数よりも子供たちにとってどういう教育が、そして地域にとってどういう教育をしっかりとやっていけるかということを考えて時に、小中一貫教育をこれからやるということで皆さん異存はないように感じておりますので、手法としてどういった形が良いのかを考えて行けば良いのかなと感じています。

次に、切り口を変えて東海委員とはスポーツでの関わりがありますので、学校教育と社会教育、社会体育の観点からご意見があれば発言をお願いします。

○東海委員 美幌町では少年団活動が大変盛んで全国・全道で活躍する子どもたちも多く出ています。そして、選手や指導者に対して町としての支援が手厚いことも町の売りになっていると思います。また、スキーやスケート、水泳などの体育授業でも外部の人たちが携わっていることも大きな特色になっていると思います。

その一方で、小中学校でスポーツや文化に親しんで身に付けて成長していますが、その選手たちが中学校卒業と共に活躍の場を求めて町外に出て行ってしまっていることは、指導者の一人として複雑です。

町内でも少子化で活動が出来なくなったり、合同チームで部活動を続けているところもありますが、地域のスポーツの振興にも影響を及ぼしていることがあります。

スポーツは体力の向上だけではなくて、協調性やリーダーシップなど人間形成として教育にも大きな役割を持っていますので、今後も特色のある体育授業やスポーツ活動を地域全体で支えて行ければと思っています。

○平野町長 ありがとうございます。体育授業を外部の人が支援するというのは美幌の特長でもありますし、こんなに盛んな町は無いのかなと思っています。ただ、一部少年団の指導をしている方から、基本的には学校の体育の中でやってほしいものがあると、例えばスキー、スケートではもう少ししっかりという意見もいただいています。そういう意味ではご意見いただいたことも頭に入れながらこれから進めていかなければならないのかなと思っています。

スポーツを子どもたちに指導いただけること、スキーでは他の町から羨ましがられるようなマンツーマンに近いような指導体制はあり得ない、それだけ子供たちが上達する機会になっているのではないかと考えています。

今回のお話しについて、町立学校の適正化の本質は、これからの時代で行けば小中一貫で進めるべきだということでは皆さん異存がないと思います。プラス前後関係の連携もし

っかりやるべきだとなった時に、小中一貫の進め方、今の学校の校数とか建物もかなり古くなってきているので改修もしなければいけない、この辺のスピードを速めていただければ、私とすれば教育長以下、教育委員の皆さんにお願いしたいことであるんですね。

これから来年の秋位に財政運営計画をまとめることになるので、これから10年くらいの一つの目安として学校の分析をしてくれたことも頭に入れながら、今後どうするか、ゆっくりという認識は持っていないので、実際にこれを整理していくには時間が掛かることも考えれば、教育委員会内部で方向性を早く出して頂ければと思います。

早くという事は最適化という事で行けば今後どういう学校配置を考えたらいいか色々な情報を頂いて方向性を出して頂ければ、それに合わせた財政的な負担のことも考えなければいけないということも実態ですので、私はそういう想いでいるのですけれども、教育長からご意見あればお願いします。

○矢萩教育長 学校の最適化という事で本町の児童生徒数では教育委員の皆さんに説明させて頂いていることはもとより、学校訪問などで実際に見て感じていらっしゃると思います。

先ほど委員さんからご意見のありました学力の関係ですとか特別な支援を要する児童生徒への対応、さらには生活習慣や学習規律の定着ですとか、いずれも学校教育の重要な課題だと思っています。

乳幼児期に身に付けた生活習慣、さらに小学校入学時に身に付けた学習規律、学習習慣というものを子供たちの成長に合わすとともに、着実に深化させるよう義務教育9年間を見据えた学校教育というのは町の特色ある教育の一つとして位置付けることは重要であることはご理解いただいているのかなと思っています。

このような中で、今後の最適化を進めていくわけですが、それには児童生徒の教育環境の改善の視点、これを中心に据えて参りたい、

このことはブレないで進めて参りたいと考えています。

町長からもありましたが、一般的には学区の見直しになってくると10年くらいかかるというような話もあります。ただ、これは教育環境の改善も目的にしていますので、スピード感を持ちながら、しかしながらしっかりと丁寧に地域の皆さんと合意形成を進めながら取り進めて参りますので、よろしくお願ひします。

○平野町長 ありがとうございます。今、教育長から教育環境の変革でスピード感を持って取り進めるということですので、教育委員の皆さんにはお手数をおかけしますが、論議をしていただき、私も総合教育会議だけではなく副町長も入れてみんなで協議しながら、やはり変えなければいけないのであれば早期に進めていくということを考えていきたいと思ひますので、よろしくお願ひします。

最後にこれは発言しておきたいというものがあればお願ひします。

○加藤職務代理者 色々な変革や社会情勢があると思ひます。少子化や高齢化もあります。でも、やはりここには子どものことが最重要でありますから、システム・計画を作るという事を子どもを中心に人間性を育むという事を考えてそういうことを大事にしてほしいなと思ひます。

時間の無い中進めていくのは大変なことであると思ひます。その中で、この先に生まれてくる子供たちのためにも、より良いものができるような検討を期待していますのでよろしくお願ひします。

○平野町長 ありがとうございます。本当に大事なご意見と思ひています。教育長が言った中でいけば子どもをしっかりと育てるということをブレることなく、皆さんも中心のメンバーでありますので、逆に私の方からお願ひしたいと思ひます。私もしっかりと認識して関わっていきますので、教育長もよろしくお願ひします。

この件についてはこれで終わりにしたいと思います。

今日は副町長にも同席して頂いていますので、感想も含めてお願いします。

○高崎副町長 本日は総合教育会議にご出席頂きましてありがとうございました。只今委員の皆さんから図書館や学校の最適化について様々なご意見を頂きありがとうございました。

今、町としましても少子化、人口減少が大きな課題になっているところでございまして、子育て・教育だけではなくて働く場含めてトータルで住み良い町でないと人口も増えてこないし、子どもも増えてこないと考えています。本当に安心して住み続けられる街づくりということが人口も増えていくものと考えているところであります。

加藤職務代理からもありましたように、教育について最優先にというお話もありましたので、児童生徒が学びやすい環境整備に教育委員会と連携して努めていきたいと考えておりますので、色々なご意見いただきことに感謝申し上げます。

○平野町長 ありがとうございました。他に無ければこれで会議を閉じたいと思います。

4 閉 会

○遠藤教育部長 平野町長、ありがとうございました。また、委員の皆様におかれましても大変お疲れさまでございました。

これをもちまして、第1回美幌町総合教育会議を閉会させていただきたいと思います。ありがとうございました。

14時35分 閉会